

ビジョンを共有し 成長を図る 未来の農業への貢献目指す

いなほ化工株式会社 代表取締役社長
VISIONドリブンホールディングス株式会社
代表取締役CEO

花田 将司 氏



創業50周年を迎えられました。これまでの歩みをお伺いします。

鉄鋼の製造過程で発生する副産物が今も肥料に使われていますが、かつては全国の金属鉱山に肥料会社がありました。大手商社の鉄鋼部にいた祖父の花田正行がこの肥料に着目し、取り引きのあった高岡で1973年に販売を始めました。

東北の鉱山ともパイプがあった関係で1983年に秋田に、97年に岩手に育苗培土の製造工場を建設し、1999年には住友金属鉱山の子会社

を譲り受ける形で富山工場を取得し、土壌改良向けの肥料を製造販売する体制も整えました。2014年に取得した群馬の関東電工(株)では元肥や追肥などに用いる化成肥料を作っています。その他、飲食部門として3店舗を運営しています。**肥料が使われる農業を取り巻く事業環境はいかがですか。**

新型コロナや国際情勢が大きく変化し、食料に対する意識が高まっています。日本では農家の高齢化が問題になっていますが、肥料

に使う資源は90%以上を海外に頼っています。世界では人口増加が続き、食料だけでなく食料を生産する上での資源を含めた争奪戦の加速が予想されます。未利用資源の活用などを含めて自給率を上げなくてはなりません。

— 事業加速に向けH D化 —

具体的な取り組みはありますか。

昨年、下水処理場から出るスラグを加工して肥料を作り、全国で初めて肥料登録しました。また、コメ由来の原料を使った肥料の研究開発も他社と共同で行っています。国内の資源を活用した循環経済の中で、これからの新しい日本の農業の形に寄与できるようにと考えています。

6月にはフィリピンに現地法人を設立しました。同国はココナッツ生産世界第2位で、第一の目的は培養土の副資材に使うココナッツ殻の繊維の調達ですが、現地の農業振興にも寄与します。フィリピンは化学肥料を使ってきたため田畑の地力が落ちており、有機肥料の輸出を考えています。

さらに、種の加工工場も視野に入れています。海外の稲作は苗を育てることなく直まきすることが多く、種もみが水に浮いて鳥に食べられたり、出芽が不安定だったりするので、種に鉄粉や農薬をコーティングして栽培に用いられ始めています。将来、日本でも需要が出てきたときにすぐに対応できるよう技術を確立し、肥料以外の事業を育てていきます。

新事業が一気に動き出していますが、体制はどうされていますか。

今までとは違うマインドで革新を起こすには、成功体験にとらわれてはスピード感が生まれません。

昨年、持株会社を設立してホールディングス制にし、いなほ化工(株)をはじめとする国内4社を横並びとし、フィリピンの会社も加わりました。

これまでは各工場や販売会社それぞれで収益を考えていましたが、総務、経理、広報などは全てホールディングカンパニーで管理し、新規プロジェクトやコスト戦略、採用教育定着なども、各部門から集めた社長付の経営会議で議論し、各拠点は“作る”“売る”に特化させます。フィリピンの会社には専属の社長が就きましたし、その他の会社にも社長を抜擢し、権限を委譲していく予定です。

— 幸せを追求し、成長を評価 —

50周年で大きな組織改編です。

この節目に、企業理念も新しくしました。「“私たちに関わるすべての人々の幸せを追求します” 実現に向かい、人として企業として成長を追い求めることを使命とします」と打ち出しました。

理念やビジョンというと、“我が社は”、“私は”などと主語が自分になりがちですが、自分や会社を通じてどんな社会を作りたいか、どんな世の中にしたいかということが大切だと考えるようになりました。

きっかけはコロナ禍に飲食部門が苦労する中で、数字を追いかけ

るのではなく、社員の幸福度をどう上げるか、そしてお店というツールを通してどのように世の中を良くできるかということを議論してきました。

現在、ホールディングスを通じて実現したい社会=ビジョンを作っています。取引会社などステークホルダーの方にも参加してもらって、一緒に目指す姿を話し合っ

社内の人材育成はどのようにされていますか。

これまでは事業所単位で行ってききましたが、インナーブランディング、ビジョンの共感を中心しながら、“作る”“売る”仕事を実践する中で、社員が成長できる仕組みと制度にシフトしていきます。

「こんな社会を一緒に作りましょう」というビジョンが採用の入り口となり、採用から教育・定着まで、ホールディングスで統一感をもって行います。先進企業などから学んで、成績にとらわれない成長に軸を置いた人事評価なども取り入れていきたいと思っています。

女性活躍についてのお考えは。

女性だからと特別扱いするのは違和感を感じています。男女関係なく誰でも働きやすい環境を整えることが大事だと思います。

そのためには数値目標などより、非言語の部分、雰囲気などが一番

大切かと思います。私は子供の幼稚園の送り迎えに行くこともあり、そうすると女性社員も「急なお迎えに行っていないですか?」と自然に言ってくれるようになりました。育児休暇は女性は全員取って職場復帰していますし、男性からも育休の申請が出ました。

今後の展望をお伺いします。

新たな展開に向け投資会社による提携も検討しています。経済学者のシュンペーターが「イノベーションとは新しいコンビネーション」と言っていますが、現状を俯瞰し、事業領域の外にある技術とのマッチングでイノベーションが生まれるのではないかと考えています。ビジョンを共有できる人と共同で新たな価値を生み出したいと考えています。

座右の銘を教えてください。

「成功を追い求めるよりも、成長を追い求めよう」です。成功は、今置かれている中でどう成功しようかとなってしまいますが、成長を求めるなら自分の殻を破って新しいものを探しに行かないといけません。大事にしたいのはそういったところです。

会社概要

いなほ化工株式会社

創業：1973(昭和48)年7月
所在地：高岡市駅南4丁目8番6号
資本金：5,500万円
事業内容：水稲育苗培土・土壌改良資材・園芸育苗培土の製造販売、飲食業の営業

従業員数：142名 (2023年6月現在)
売上高：28億円 (いなほ化工(株)単体)
事業所：富山工場、秋田工場、岩手工場、横手流通センター、とりでん(高岡駅南店、水沢店)、タリーズコーヒー富山県立中央病院店
関連会社：VISIONドリブンホールディングス(株)、(株)アイケイ、三新化学(株)、関東電工(株)、イナホアグリベンチャーフィリピンコーポレーション

URL：https://www.ihk.jp



出来上がったばかりのビジョンを可視化する絵

略歴

1982年1月高岡市生まれ。2004年金沢学院大学経済情報学部卒業後、商社勤務を経て、2011年いなほ化工(株)入社、2019年8月から代表取締役社長。